おしゃべり通信

Ｎｏ．230　H31.1.15 発行　　如春会　浦田医院

～H29 年４月発行　日本小児科医会会報特集～

スマホパンデミック！⑦
＜スマホ社会の落とし穴＞

2.「劣化」の実相

子供は、いつでも大人のすることの逐一を、見ていないようで見ているのです。だから、大人の真似をして喃語をしゃべり、大人が食べているのを見て食行動を覚え、洗面や入浴という保清を習慣化し、排泄行動もおむつ外しができるようになっていくのです。尤も、おむつ外しについては、トイレットトレーニングという大人の働きかけがなくなっている現在、どんどん遅れて、平均３歳半になっていますが・・。こんなことからも分かるように、大人の行動というお手本があるからこそ、子供は次に何ができるようになったら良いかを知っていく訳です。
そんな中で、大人が一生懸命使っていて、場合によっては子供より優先されている電子メデイア機器に興味が持たない子供がいる筈はありません。

「子供の意思を尊重する」という言葉で置き換えて大人自身が納得しようとしている、大人の「自信」や「権威」の失墜や社会共通の価値観の多様性が「子供は大人になるまでしてはいけません！」「ダメなものはダメ！」と言う有無を言わさぬ静止（無茶苦茶な押し付けや干渉ではありません。ちゃんと理由のある整合性のある理屈です。）をどのくらい妨げているか？考えてみる必要があるでしょう。大人と呼ばれる私たちは子供たちに知識や行動の正解を教えているのではありません。そのことに対してどういう考え方を持てば正解に辿り着けるか、その考え方の道筋を辿る方法を教えなければならないのです。それは普遍的なものである筈で、選ぶべき価値観の多様性の基本になるものですから、そこは自信をもって対応してよい部分なのです。

一方、貴方一人がそれに気が付いて「何とかしよう！」と頑張っても、無理であることもよくわかります。何故なら、貴方と同じ考えと行動規範を持った大人の共同作業がない限り、それが「社会の基本的ルール」だとは認知されないからです。
様々な価値観が併存し、互いに認知されあって、譲り合っている日本という社会は、世界でも珍しく、それが現代日本の良いところでもあるのですが、その為に子供達への規範・模範となるモデル（例えば神様がいると信じれば、理屈はどうあれその教えに従っていればよい人間になれ心も救われるのですから、ある意味簡単です。）を示しにくくしてしまっているのは、なんだかとっても残念です。私たち日本人は「八百万の神」「お天道様」という考え方で、これ等から共通する真実を見つけ出す能力に秀でた民族だったはずですから、この問題にもきっと何か基本的本質があることに気が付くことができる筈です。

それを子育て行動の中に活かしていけばよいのだと思いませんか？そして、その時その問題に対する「不用意な静止」はかえって子供達の興味を強めるだけでなく、その行動を隠させてしまう結果となる可能性がある事にも気が付いておきましょう。

大人社会の皆の目に子供のしている事がちゃんと見えている生育環境を作っていきましょう。　　（以下次号）

（平成29年7月　S.URATA　MD.）

（エリクソンの発達心理学的理論）
＜子どもは成長・発達し、大人は発達・成熟する。＞

▸ 生物には成長や発達の臨界期と呼ばれるものがあり、その時期に適切な対応をしておくことが必要。

・・　前思春期までに！！

▸ 幸いな事に人間には他の動物と違って高い修正能力が備わっている為、違和感に気がついたその時期に見合った介入を試みていけば良い。

・・　いつになっても遅いと言う事は無い。

▸ 子どもの成長と大人の成熟は裏腹の事象。

・・新しい問題がおきたら大人も子どももしっかり対応すれば良い。

感染症 up to date!
～突発性発疹②～

ウイルスは変化する・・・？
病型が変化している？

長い間、合併症もない軽い病気で、一回罹れば終わりと考えられてきましたが、近年、季節に関係ない発症、幼児になってから罹る、2～3回罹る、発疹出現時に妙に不機嫌になる、下痢を伴わない、治りかけの１週間頃に「脳症」を疑う症状が出る（意識消失・痙攣）または「脳症」が起きる等、３株目があるのか？ウイルスが変異しているのか？子供の育ちが変わったのか？と、あれこれ考えさせられる病型の変化が見られます。

また、大人がかかると・・という議論も昔からあります。ウイルスアレルギーの代表的なものと考えられている「ジベルばら粃糖疹」の原因の一つにこのウイルスも疑われています。水痘同様（これもヒトヘルペスウイルスです）大人がこのウイルスを持続感染で持っていて、子供に移している可能性は否定でません。

感染症の重症度は、ウイルスの侵襲性の強さ×宿主（患者さん）の免疫力・体力の強さで決まります。だから同じウイルス感染でも軽重があるのです。また基本的にウイルス感染に特効薬はありませんので、免疫学的遺伝・年齢的素因はあったとしても、感染予防の基本として「身体力の強い、生活力のある、我慢強い子」に育てておかねばなりません。それがつまり、「早寝・早起き・朝ごはん、TV を消して外遊び」という子育ての基本です。

（H30年５月　S.URATA　MD）

“子ども・若者とメディア”を考える会

期日：平成３１年２月２２日（金）19：00～
場所：玉名郡市医師会３階「大ホール」
内容：子どもにも、わたしにも余裕が生まれる子育ての上手な考え方・捉え方
講師：新村隆博氏　（玉名市子育て支援課主幹）